

小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	28	施策名	国際化の推進	
小施策コード	28-1	小施策名	国際交流の推進	
小施策 主管課等コード	046800	小施策 主管課等名	文化国際室	
評価責任者名	赤坂 國彦		内線番号	2110
評価シート作成者名	小原 幹男		内線番号	2156

Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
まちづくり評価アンケート調査「この一年間に国際交流に参加したことがある」と答えた市民の割合	↑	%	2.6	4.7	3.1	3.8	5.0

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等 (構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり)

対象 (誰 (何) を対象として行うのか)	意図 (対象をどのようにしたいのか)
市民, 外国籍市民	国籍や民族, 文化など異なる人々が互いの違いを認め合い, 共に生きていこうとすることにより, 相互理解が図られる。
現状と課題	国籍や文化などの違いに関わらず, すべての市民がお互いの文化的背景や考え方を理解し, 共に暮らし支え合う地域社会の実現に向けて, (公財) 盛岡国際交流協会をはじめとする民間団体と協働で国際相互理解と国際友好親善の促進を図っていく必要がある。
取組の方向性	市民の国際理解を深めて国際感覚を養うとともに, 市民主体の国際交流活動の支援を行うことにより, 国籍や文化の違いを超えた相互理解に対する市民意識の醸成を図りながら, 地域社会で共に暮らす外国人の支援体制の充実につなげる。

Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
まちづくり評価アンケート調査「この一年間に国際交流に参加したことがある」と答えた市民の割合	↑	%	2.6	4.7	3.1	3.8	5.0
盛岡国際交流協会賛助会員数(個人)	↑	人	126	151	189	132	139
盛岡国際交流協会賛助会員数(団体)	↑	人	19	19	19	28	38

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

Step 4 市民ニーズの把握

平成28年度のまちづくりアンケート調査結果によると「この一年間に国際交流に参加したことがある」と答えた市民の割合は、25年度調査と比較して0.5ポイント上昇していることから、国際交流に係る継続的な取組が求められている。

Step 5 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	対外的な対応を中心に国際交流施策を推進しながら、市民・民間団体の国際交流活動を支援することとしている。	30
	国・県・ 他自治体	あらゆる分野でグローバル化が進展し、国際協力、多文化共生を取り巻く環境の変化に対応するため、情報共有を図り、連携しながら進める必要がある。	10
	市民・ NPO	国際交流事業実施のノウハウを蓄積している国際交流団体等と協働し進めることが必要である。	50
	企業・ その他	社会貢献の一つのあり方として、国際交流推進への理解と役割を担うことが求められている。	10

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

民間団体等の国際交流活動への支援により、国際交流に関心を持つ市民が増加する効果が得られることから、現状維持とするもの。

Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

魅力ある国際交流協会事業の展開と情報発信を働きかけ、賛助会員の拡大につなげる。

2 1の改革改善案の実施状況

（A：着手済、B：平成29年度に着手（予定含む）、C：未着手または見送り）

改革改善案	具体的な取組（予定）内容	状況
魅力ある国際交流協会事業の展開と情報発信を働きかけ、賛助会員の拡大につなげる。	協会主催事業参加者へ情報発信を行うほか賛助会員加入の呼びかけを行った。	A

3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

Step 7 成果・問題点の把握

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 派遣事業参加者が、訪問国での体験や教育、文化、社会の諸事情の視察を通して、相互理解や交流が深まった。
- ・ 留学生が市内中学校の英語指導助手的な役割として配置になることで、市内中学生と交流が深まり、英語教育の充実と国際理解教育の推進が図られた。

(2) 成果をあげた要因

- ・ 中学生ビクトリア市研修に対する企業の協賛を得られた結果、派遣生徒を増員することができたほか、継続的な交流の必要性を確認できたことによる。
- ・ 「盛岡ーインディアナ州交流派遣事業」及び「アールム大学留学生研修事業」において、事業の経費に即した適切な補助金を交付したため。

(3) さらなる成果向上に向けた課題（課題がある場合に記載）

市民の国際交流への理解及び関心をより高め、国際交流が日常的な存在となるように事業展開を工夫する必要がある。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

国際交流協会の活動に賛同する賛助会員を更に増やす必要がある。

(2) 現状の問題点が生じている原因

事業内容が固定化しており，国際交流協会の賛助会員獲得の魅力が薄れている。

(3) 分析した原因の解決に向けた課題

国際交流協会の事業内容の改善点を点検し，魅力ある事業や情報発信について検討する。

Step 8 小施策と構成事業の関係性

1 小施策との結び付きが弱い，もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

該当事業なし。

2 1で記載した事業についてその理由

3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

Step 9 Step 7, 8を踏まえた改革改善案

- ・ 賛助会員にとって魅力ある事業展開と情報発信
- ・ 岩手県国際交流協会と連携した事業展開による事業の充実